中央アフリカの医療事情

脇坂 順一

Medical situation in Central Africa

Junichi Wakizaka

Department of Surgery, School of Medicine, Kyushu University

私は1961年と1964年の2回に亘つてアフリカの西部赤道直下のガボン国にあるシュバイツァー病院を訪れ、病院の仕事を手伝ったが、この病院における経験のみで中央アフリカの医療事情を云々することは多少正鵠を失うことになるかも知れないが、大まかな傾向を窺知することは出来ると思う。

この国の人達は都市を除いては殆ど文明に接していない、大部分の人達はジャングルの中で原始的ではあるが清潔な小屋に住んでいて、植物を栽培したり、漁つたりして生活を営んでいる。知識の程度が低く、いわゆる祈禱師とか呪い師にかかる者が多い。然しシュバイツァー病院は年毎に患者が増え、その治療成績も見るべきものがある。この国の病院の中で、治療の内容は恐らく最も優れているものと信ずる。

新患者は1958年には3800, 1959年4300, 1960年4600, 1961年, 1962年はそれぞれ6000で、342のベットは常に満床であつた。その他ハンゼン氏病のために180のベットが隔離されている。

スイスから来た勤務医師 Müller が行つた2500名の患者の統計では寄生虫病が最も多くて14%を占めている(表1)。Nematoden の卵を調べるために500名の1回の検便で陰性だったのは25%のみで、あとの28%は蛔虫と十二指腸虫が認められ、26%は十二指腸虫のみが、21%は蛔虫のみが認められたと云う。その他殆どすべての患者はフィラリアを宿しており、陰嚢水腫が頻発している。然し象皮病は少ない。その他、住血吸虫、アメーバおよびマラリア原虫も屢々認められる。以前蔓延していた睡眠病は現在は稀で、3年間に1例遭遇したに過ぎない。アメーバ赤痢は相変らず多い。重症マラリアでも流血中に原虫が発見されぬことがあり、一方健康な住民達の中に原虫が発見されることがある。

第1表 Hauptdiagnosen von 2500 Pat.

Parasitosen	14.0 %
infektiöse Erkrankungen	13.9 %
("Status febrilis")	3.0%
intestinal	5.2%
pulmonal	5.7%)
Schwangerschaft und Geburt	9.8 %
gonorrhoeische Folgezustände	9.7 %
(Männer 2.1%, Frauen 7.6%)	
ohne Diagnose	7.2 %
diverse Schmerzzustände	6.6 %
Hernien	5.6 %
Unfälle	5.6 %
chronische Leiden	5.2 %
Uterusfibrome	2.0 %
Herz-und Kreislauferkrankungen	1.8 %
Tuberkulose	1.6 %
kleine Chirurgie	1.5 %
Lepra	0.24%
restliche Diagnosen	
(HNO, Augen, Zähne etc.)	15.06%

淋疾が蔓延していることは驚く程で、何等かの所訴を有する成人の検尿の結果約80%においてグラム陰性の双球菌が認められる。女子は不妊、子宮附属器炎、男子は尿道狭窄で病院を訪れることが多い。熱帯性潰瘍も時折見られるが、なかなか治り難いものである。

悪性腫瘍は比較的少ない。胃癌は殆ど見られない。また、動脈硬化や高血圧症が殆ど見られないことは興味深い(表2)。

手術症例としては鼠径ヘルニヤが最も多く手術例の約半数を占め、殆どすべてが後天性のものである。中には嵌頓しているものもいるが、予後は非常に良い。腸

第2表 Maligne Tumoren 1961 und 1962

Total : 50 Fälle		Melanom	3
Lymphosarkom	2	Haut	2
Retothelsarkom	2	Urinfistel	2
Morbus Hodgkin	2	Urethra	1
Sympathikoblastom	1	Gallenblase	1
Chorionepitheliom	1	Bronchus	1
Sarcoma Kaposi	1	Larynx	1
Hämangoendotheliom	1	Rektum	2
Karzinome :		Prostata	2
Vulva und Vagina	6	Kolon	1
Ovar	5	Harnblase	1
Portio	5	Pankreaskopf	1
Leber	5	Struma	1

穿孔のため汎発性腹膜炎を起した者が50キロも歩いて来たのは一驚したが手術によって救助し得た。

次に多いのが子宮附属器炎と子宮筋腫で子宮全摘症例が多かった(表3, 4)。

第3表 Operationen 1961 und 1962

	1961	1962
Operierte Personen, total	802	950
1. Hernien und Hydrozelen	405=50.6%	516=54.3%
2. Gynäkologie und Geburtshilfe	142=17.7%	155=16.1%
3. Urologie	34= 4.2%	20= 2.1%
4. Augen	19= 2.4%	23= 2.4%
5. Große Operationen	45= 5.6%	41= 4.3%
6. Kleine Operationen	174=19.6%	197=20.7%

ハンゼン氏病も多かったが、その程度が極めて軽いものの特徴といえる。手足の指だけ犯されているが殆どである。

なお1964年度にはガーナの首都アクラにも赴き国立病院たる Korle. Bu Hospital (かつて野口英世博士が黄熱病の研究をし、そのために亡くなられた研究所がある)を訪ねたが、これは近代的な病院で、英国で医学を学んだ黒人の医師が勤務しており、病室も立派で諸設備も優れ、ヨーロッパの病院に近い内容のすばらしいもの

第4表

1. Hernien und Hydrozelen Inguinal und skrotal		
einseitig	235	298
doppelseitig	104	153
Femoral	11	11
übrige Hernien	20	29
davon inkarzerierte Hernien	56	32
Hydrozelen	63	99
2. Gynäkologie und Geburtshilfe		
Operationen: Hysterektomien	77	119
Adnexoperationen	24	8
Vesikovaginalfistel	10	1
übrige(vag. Hysterektomie Urethraplastik etc.)	6	12
Kaiserschnitte	25	15
Diagnosen: Uterusfibrom	12	20
Uterusfibrom mit Adnexitis	36	29
chron. Adnexitis	80	53
Extrauterin gravidit.	3	15
3. Urologie		
Strikturen(meist mit Urinfisteln)	32	16
Übriges	2	4
4. Augen		
Katarakt	7	14
Glaukom	4	3
Übriges	8	6
5. Große Operationen		
Abdomen(Ileus, Perforation etc.)	27	17
Struma	3	8
Elephantiasis	5	4
Osteosynthese	3	3
Übriges(Laminektomie, Sehnen- ransplantation, Laryngektomie)	7	9
6. Kleine Operation		
Kleine Tumoren(Lipome etc.)	49	62
Übriges(Biopsien, Hauttransplan- tationen, größere Wundversor- gungen, Hämorrhoiden, Tra- cheotomien, Kürettagen etc.)	125	135

であつた。

要するに大きな都会では生活程度も高く医学の水準も高いが、一步都会を離れると未だ文明の恩恵に浴しない多くの原始的な気の毒な人達がいることを知った。